

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

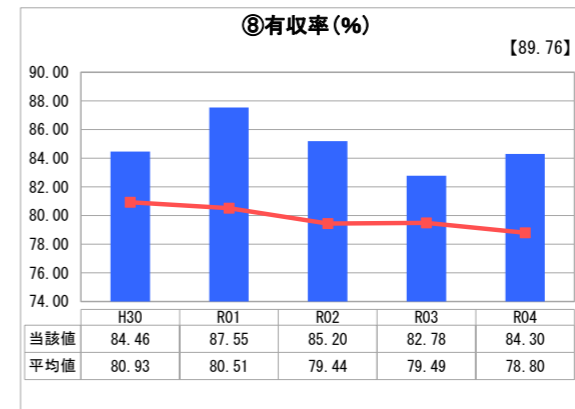
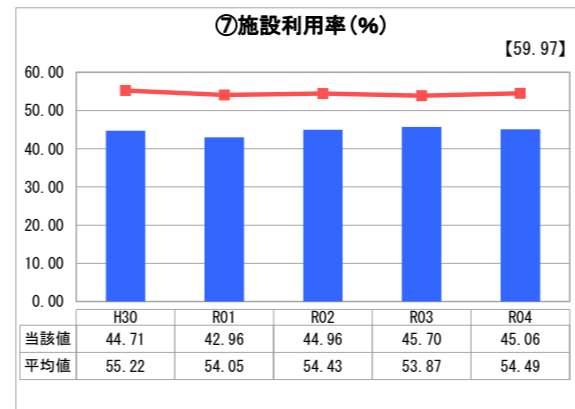
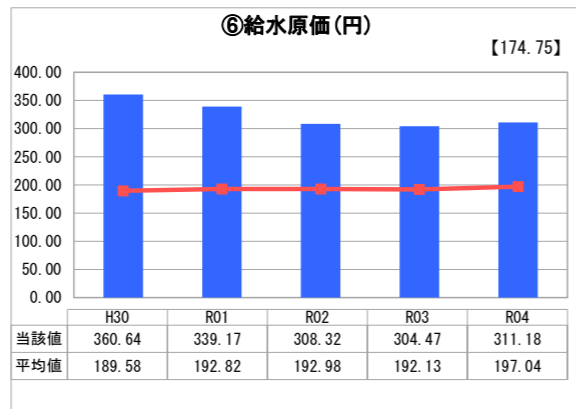
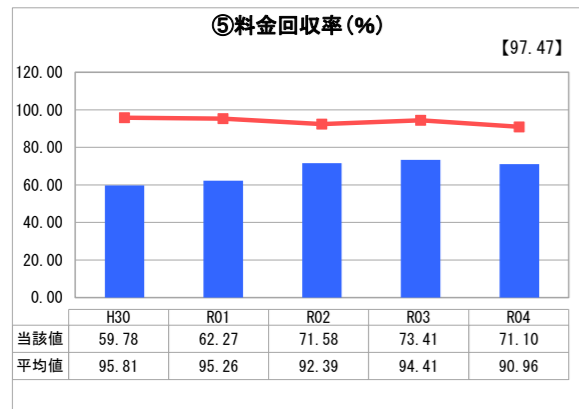
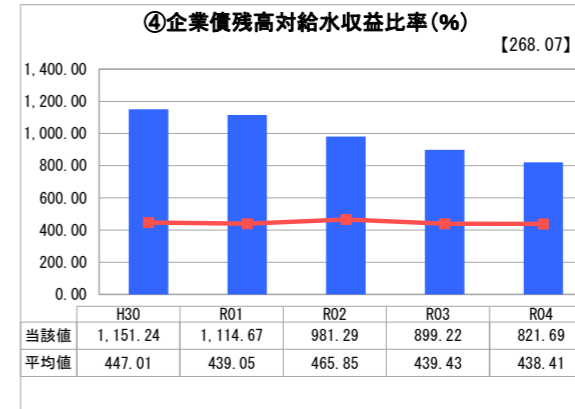
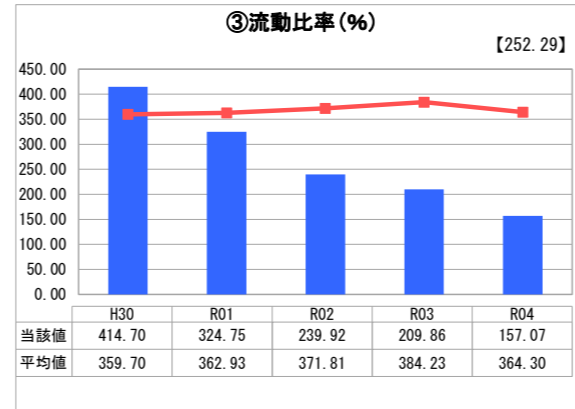
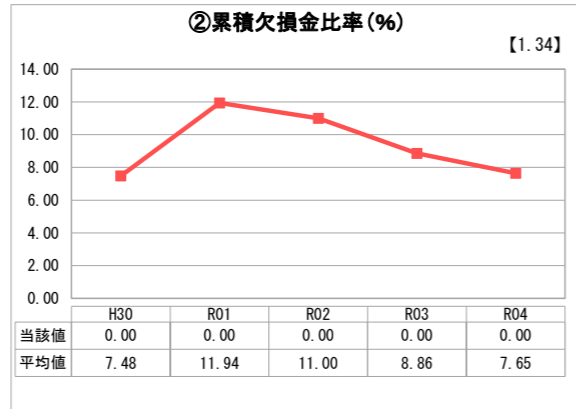
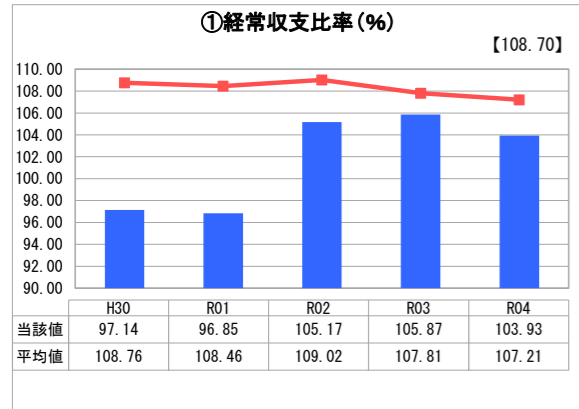
岡山県 鏡野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	66.17	96.28	4,400	

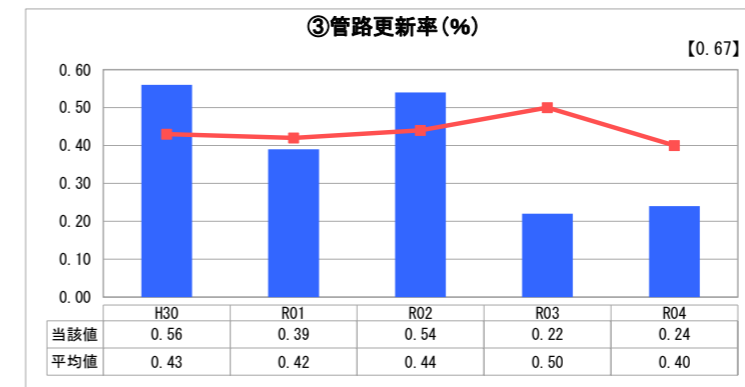
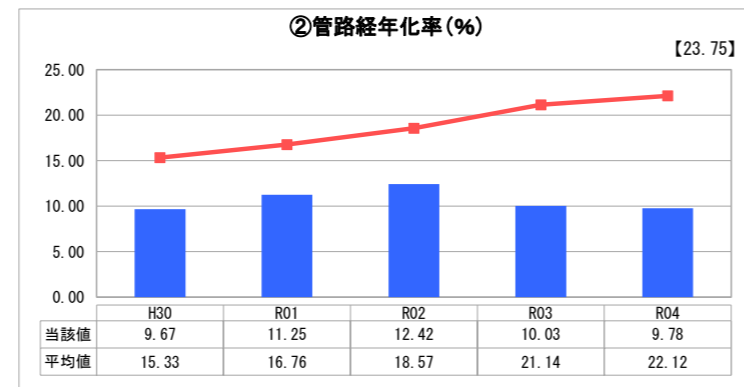
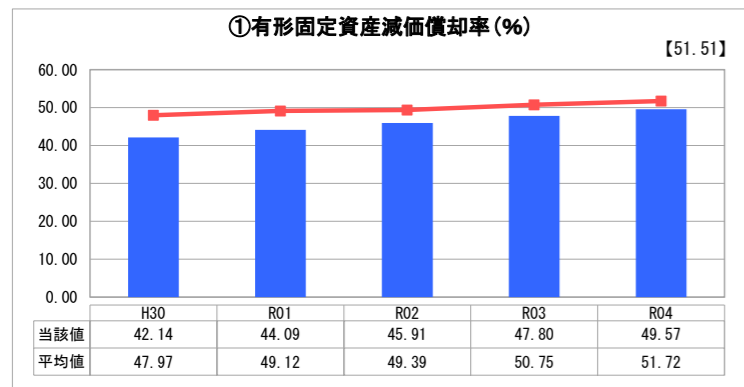
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,468	419.68	29.71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,892	56.03	212.24

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
平成30年度の簡易水道事業統合に伴い、令和元年度までは赤字経営となったが、令和2年度に水道料金の値上げを行ったため黒字に転じた。令和4年度は、物価高による光熱水費や資材費等の高騰により経常費用が増額となった。

② 累積欠損金比率  
近年欠損金は全く発生しておらず、繰越利益剰余金においても余裕はあるが、将来的には人口の減少等により給水収益は減少していくことが予測されるため、維持管理費等の経費削減に取り組んでいく必要がある。

③ 流動比率  
現金預金の減少及び未払金、翌年度償還予定企業債の増加により比率が減少し、類似団体平均値を下回った。経営統合を行った簡易水道事業の起債償還額の影響が大きい。

④ 企業債残高対給水収益比率  
企業債の償還により比率が微減となったが、引き続き類似団体平均値を大幅に上回っている。

⑤ 料金回収率  
R2年度からの料金値上げの影響で増加となったが、依然、給水に係る費用が給水収益でまかなえていないことを表している。

⑥ 給水原価  
経常費用が物価高の影響を受け、増額したことに伴い微増したが引き続き類似団体平均値を大きく上回っている。

⑦ 施設利用率  
山間部における定住人口の減少及び配水管の漏水修理により、配水量が減ったため、前年度に比べ減少することとなった。

⑧ 有収率  
配水管の漏水修理及び昨年度に比べ暖冬だったことなどから漏水量が減少し、有収率が増加した。また、類似団体平均値を上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
平成30年度に簡易水道事業を統合したため、平成30年度から類似団体平均値を下回っている。旧簡易水道事業分の有形固定資産が比較的新しいことを示している。

② 管路経年化率  
平成30年度の簡易水道事業の統合に伴う経過年数の少ない資産の増加により引き続き類似団体平均値を下回っている。

③ 管路更新率  
平成29年度から令和2年度にかけて管路更新事業計画に基づき老朽配水管の更新を実施した。今後も計画的な老朽配水管の更新を実施していく。

## 全体総括

平成30年度に簡易水道事業を統合したため赤字経営に転落し、その後も損益上の赤字決算となった。令和2年度に水道料金の値上げを行い、黒字化を図ったが、令和3年度から7年度にかけて、配水池等の大規模な施設更新を行っていったため、収支の効率化をより一層図りながら不要な資産の除却も併せて進めていくことが今後の課題となっている。